



南京玉を糸に通して
 「明日はいい子になります」と、いった日は
 手まりを溝から拾い上げ
 「明日はいい子になります」と、いった日はいつだったろう……
 神様 私は、お約束を破って
 こんなにこんなに罪深い女になってしまいました。



神戸文学館企画展

久坂葉子がいた神戸

2014年9月5日(金)~12月25日(木)

60年余り前、神戸に久坂葉子という作家がいました。
 19歳で発表した「ドミノのお告げ」が芥川賞候補となり、以後、せきを切ったように数々の作品を生み出していきます。そして21歳の大晦日、遺書めいた作品「幾度目かの最期」を書き上げて自死します。なぜそれほどまでに生き急いだのか。井上靖は、一瞬の流星にたとえてその若い死を惜しみました。久坂葉子が遺した作品をいま読み返してみると、久坂の切なく凜とした青春とともに、遠い日の香り高い神戸の街がよみがえってくる気がするのです。

神戸文学館



■開館時間：平日 午前10時~午後6時
 土・日・祝日 午前9時~午後5時
 ■休館日：毎週水曜日(休日の場合は翌日)
 ■交通案内
 阪急電鉄：王子公園駅から西へ約500m
 JR：灘駅から北西へ約600m
 阪神電車：岩屋駅から北西へ約850m
 市バス：王子動物園前から西へ約200m

展示内容

自筆原稿「幾度目かの最期」「落ちてゆく世界」「鉄と布と型」、自筆の詩文集、創作ノート、自筆の絵、自作の皿・灰皿・マドラー、書簡、写真など。
 協力：富士正晴記念館・久坂葉子研究会

記念催し

10月4日(土)午後2時~3時30分

「久坂葉子と神戸を語る」

トーク：柏木 薫(作家、久坂葉子研究会代表)

義山雅士(久坂葉子研究会メンバー) ほか

11月8日(土)午後2時~3時30分

「久坂葉子と神戸を聴く」

進行：今林清志(元ラジオ関西プロデューサー)

池田奈月(フリーアナウンサー) ほか

いずれも参加料200円 定員50名 参加申し込み・問い合わせ：神戸文学館 ☎078(882)2028



久坂葉子自筆の絵